

4. 17 針葉樹皮土壌改良材

① 評価対象資材

針葉樹皮を原料とした土壌改良材を対象とする。

② 品質・性能

- a. 学校運動場、野球場、サッカー場等の表層土に混合し、泥濘化防止、防塵、雑草抑制、土砂流出防止等が得られるものであること。（グラウンド用土壌改良の場合）
- b. 芝生広場、植生地等の表層土に混合し、植物の根はりを良くし育成の促進が得られるものであること。（芝生・植栽用土壌改良の場合）
- c. 羽毛状化した繊維の長さが30mm以下であること。

※施工の目標値として、(公財)日本体育施設協会の屋外体育施設の建設指針によるクレイ系グラウンドのプロクターニードル貫入抵抗値を参考とすること。

競技種目	貫入抵抗値	摘要
陸上競技場	50～110ポンド	トラックおよび助走路
野球場	30～80ポンド	芝生舗装を除く
多目的運動場	40～100ポンド	芝生舗装を除く
校庭（学校運動場）	50～90ポンド	
テニスコート	40～110ポンド	
サッカー場	30～80ポンド	芝生舗装を除く

③ 再生資源の含有率

針葉樹皮をほぼ100%原料として使用していること。

④ 環境に対する安全性

原料として特別管理（一般・産業）廃棄物を使用していないこと。

⑤ 品質管理

安定した品質が確保できる設備・組織、社内規格、材料の供給体制、品質管理推進責任者等を備えた工場において製造された製品であること。

⑥ 環境負荷

- a. 再生資源を含有しない製品を使用した場合に比べ、環境負荷低減効果があること。
- b. 再生資源を含有しない製品を使用した場合に比べ、別表1に示す項目について環境負荷が増大しないこと。

別表1 環境負荷増大が懸念される項目

- ・再リサイクルが可能な資材である。
- ・再リサイクル時に著しい環境負荷が生じない。
- ・使用時，施工時において，有害物質等の溶出がない。
- ・製造過程においてエネルギー消費量が著しく増大しない。
- ・製造過程において，著しい環境負荷は生じない。

令和 元年 1 1 月 7 日 一部改正